

# ポロニア祭大特集

## ポロニアってどんな意味？

### Paulownia = 桐の意

キリ（桐、学名: *Paulownia tomentosa*）は、シソ目のキリ科 Paulowniaceae キリ属の落葉広葉樹。別名、キリノキともよばれ、漢語の別名として白桐、泡桐、榮があります。初夏に特徴的な淡紫色の花を咲かせる花木で知られています。属名の学名「Paulownia（ポウロウニア）」は、江戸時代に長崎オランダ商館の医官として滞在したドイツの博物学者

学者 **シーボルト**（1796～1866）がオランダ王妃**アンナ・パヴロヴナ**（Anna Paulowna / 1795～1865）に

献名したものです。アンナ・パヴロヴナはシーボルトを資金面で支援したといわれます。和名の桐（キリ）の由来は諸説あり、キリは切ってもすぐに芽をだして成長するため「切る（きる）」が転訛したともいわれます。

英語では「Empress tree（女帝/皇后の木）」「Foxglove tree（狐の手袋の木）」「Princess tree（王女の木）」と呼ばれます。

古代中国において桐は鳳凰が「梧桐の木に宿り竹の実を食う」と神聖視され、日本でも嵯峨天皇の頃から天皇の衣類の刺繍や染め抜きに用いられるなど、「菊の御紋」に次ぐ高貴な紋章とされました。また中世以降は天下人たる武家が望んだ家紋でもあり、足利尊氏や豊臣秀吉などもこれを天皇から賜っています。このため五七の桐は「政権担当者の紋章」という認識が定着し、近代以降も「日本国政府の紋章」として大礼服や勲章（桐花章、旭日章、瑞宝章）の意匠に取り入れられ現在でも様々な場で使われています。



桐の英名「princess tree」は、属名の Paulownia の語源であるオランダ王妃アンナ・パヴロヴナが元はロシア大公女であったことに基づきます。

その、アンナ・パヴロヴナの結婚の際に詩を捧げたのがロシアの国民的詩人のアレクサンドル・プーシキン。戯曲・小説も多く書き、特に「スペードの女王」は日本でも有名。運命の皮肉を描いた小説さながらに自作「エフゲニー・オネーギン」を思わす決闘で命を落としました。



こちらの句の作者は高浜虚子 季語は「桐一葉」で、季節は秋。実は「桐一葉」とは、【桐の葉が一枚落ちるのを見て、秋の訪れを実感する】、さらには【小さな動きから衰亡の前兆をとらえる】といった意味で使われる言葉なのです。それをモチーフに「桐」を家紋とする豊臣家の滅亡を描いたのが坪内逍遙の戯曲「桐一葉」。西洋の演劇手法を大胆に取り込んだ野心的作品で発表時に大きな話題となりました。

